



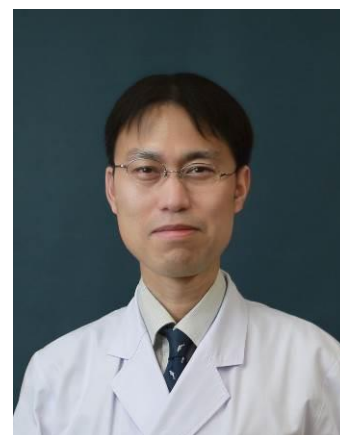
奈良県立医科大学眼科ニュースレター Vol. 29

ご挨拶

教授 加瀬 諭

このたび 2025 年 4 月 1 日より奈良県立医科大学眼科学講座を担当しております。私は札幌市立向陵中学校、北海道札幌西高校を卒業し、代々木ゼミナール（代ゼミ）札幌校で 1 年過ごした後、鳥取大学医学部医学科に入学し、卓球部とスキー部に所属しました。

当時は初期研修などの制度はなく、卒業後は学生時代から交流のあった器官病理学の大学院に進学しました。大学院 1 年目は、当時の第二内科で研修を受けることになりました。主治医を担当した C 型慢性肝炎・肝硬変患者が経過中、歩行障害を伴う封入体筋炎がみられ、稀な症例として人生初の論文を掲載させていただきました。2 年目から本格的に病理学の井藤久雄教授の薫陶を受け、どっぴりと外科病理、実験病理を学びました。



これらの病理学の研鑽が、その後の私の眼科学での研究の礎となりました。食道癌のアポトーシス関連分子 Fas の発現解析を行い、学位を取得しました。病理学の学生実習にも、一応指導的な立場で参加しました。その後半年間、鳥取大学医学部附属病院病理部で勤務をし、2003 年より北海道大学眼科へ入局しました。眼科学の研鑽を積み、2007 年に米国南カリフォルニア大学・ドヒニー眼研究所へ留学しました。この間、Stephen J Ryan 教授の薫陶を受け、網膜の血管新生における熱ショックタンパクである αB -クリスタリンの発現解析を行い、論文を執筆しました。幸い、眼病理学の権威である Narsing A Rao 教授の教室にも出入りすることができ、多くの眼病理切片の診断・研究に関わることができたのも幸運でした。帰国後は網膜硝子体疾患と眼腫瘍を専門としました。手稲溪人会病院に 3 年間出向し、網膜剥離や眼球破裂、増殖糖尿病網膜症などの重症例に多く関わることができました。10 年ほど前には、出張先の一つの網走厚生病院で硝子体手術を立ち上げ、強膜内陥術、増殖硝子体網膜症手術も行ってきました。本年 1 月には、函館中央病院における硝子体手術第一例目のテルソン症候群による硝子体出血に対する手術を執刀しました。眼腫瘍に関しては、結膜・眼瞼から眼内腫瘍、眼窩腫瘍の全ての眼腫瘍患者を診療することに努め、多くの手術や眼局所の薬物治療を行ってきました。眼内腫瘍摘出術や骨切り併用眼窩腫瘍摘出術は希少な手術ですが、大変やりがいのあるものです。

このたびご縁がございまして、奈良県立医科大学へ赴任しました。奈良県は日本国発祥の地であるためロマンを感じつつ、かつ平城京においては造酒司による日本酒作りが始まったとされる地でもあります。今後も様々な歴史を学びつつ、奈良県の眼科医療の向上、ひいては学術的に優れた成果を残せるように努めて参りますので、何卒ご指導賜りますようお願い申し上げます。



講演会

第 9 回 NORS の会

2025 年 5 月 17 日に、ミグランス 橿原市役所分庁舎 4 階コンベンションルームで開催されました。まず、眼科での 1 日の仕事の流れや夏休みについて話しながら、リラックスした雰囲気の中でウェットラボ実習を行いました。

その後、奈良県立医科大学眼科医局紹介をそれぞれの専門分野の紹介を交えながら行いました。特別講演として、福島県立医科大学 眼科学講座 准教授 向井亮先生に、『私の研究経歴～今このクールな時代に熱くありたい』と題して講演していただきました。加齢黄斑変性に関して留学中の研究も踏まえて幅広くお話して頂き、大変勉強になりました。ありがとうございました。

懇親会では、眼科医局の説明だけでなく、現在の眼科医療についても初期研修医の先生方や学生と懇談することができ、有意義な時間を過ごすことができました。今年の入局勧誘には手ごたえを感じております！来年に何名入局してくれるのか、非常に楽しみです。



入局と異動の御挨拶

唐澤先生が入局され、森本先生が異動されましたので挨拶をしていただきます。

唐澤 優太（奈良県立医科大学附属病院 眼科 医員）

この度、奈良県立医科大学眼科に入局させていただきました唐澤優太（からさわゆうた）と申します。出身は温泉で有名な群馬県草津です。趣味は旅行とサウナとご飯です。まだまだ右も左もわからず先生方にご迷惑をおかけする毎日ですが、日々精進して頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



森本 佑（奈良県立医科大学附属病院 眼科 医員）

2025 年 4 月より奈良県総合医療センターより奈良県立医科大学附属病院に異動になりました、森本佑（もりもとゆう）です。久しぶりの環境に戸惑いもありますが、微力ながら地域の医療に貢献できるよう精進していく所存です。

また、4 月に大学院に入学いたしましたので、研究も精力的に行っていく所存です。加瀬教授の大学院第 1 期生として、臨床・研究の両面で精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



学会の報告

第 48 回眼科手術学会のご報告

西 智（奈良県立医科大学 眼科学教室 講師）

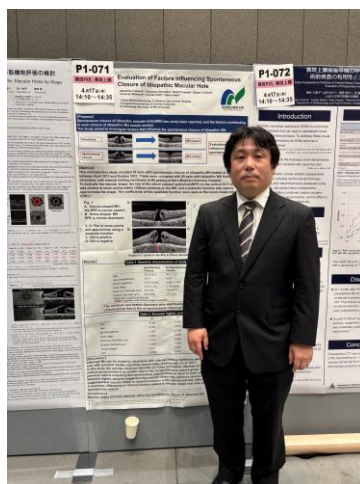
第 48 回日本眼科手術学会総会における教育セミナーで斜視手術に関する講演を行いました。斜筋手術は上下斜視や回旋斜視が原因で、代償性異常頭位を示している場合や複視を認める場合に施行します。上斜筋麻痺の症例に対する手術を提示しながら、斜筋手術を行う場合や、直筋手術を行う場合の選択についてお話させていただきました。登壇されていた先生とも意見交換でき、有意義な時間となりました。



第 129 回日本眼科学会のご報告

藤原 克彦（奈良県立医科大学 眼科学教室 助教）

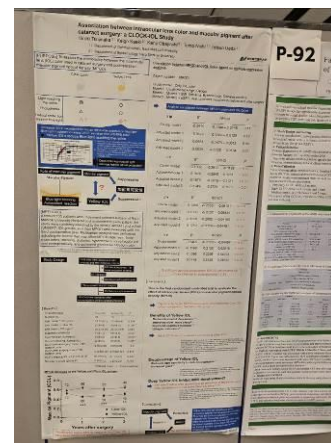
2025 年 4 月に東京国際フォーラムで開催された第 129 回日本眼科学会総会で黄斑円孔自然閉鎖についてポスター発表させていただきました。久しぶりの発表で、またポスターを苦手な英語で作成しなければならず苦戦しましたが、なんとか無事に終わることができました。会場には緒方先生も来てくださりありがとうございました。また発表にあたりご指導ご鞭撻いただきました西先生、上田先生、加瀬先生をはじめとする先生方に心よりお礼申し上げます。



第 59 回 Fuji Retina のご報告

辻中 大生（奈良県立医科大学 眼科学教室 講師）

今年も Fuji Retina に参加させていただきました。国際学会ということもあり、会場では各国から Speaker が集まり、熱い議論が繰り広げられていました。コロナもすっかり落ち着いたようで、学会参加はもちろんのこと、日本の良さを感じて帰ってもらえると嬉しいなと思いました（学会時期はちょうど桜が満開で、会場である虎ノ門ヒルズもとてもきれいでした。）さて、私はというと、Association between intraocular lens color and macular pigment after cataract surgery: a CLOCK-IOL Study というテーマで発表させていただきました。これは緒方名誉教授時代に始まった CLOCK-IOL Study という疫学研究のサブ解析であり、当科からは西講師と私、そして当院の疫学・予防医学講座の先生方と共同で研究しております。白内障手術時に挿入される黄色着色レンズは透明レンズと比べて様々なメリットがあるといわれていますが、一方で近年の疫学研究では、加齢黄斑変性の発症抑制効果はないといわれており、有



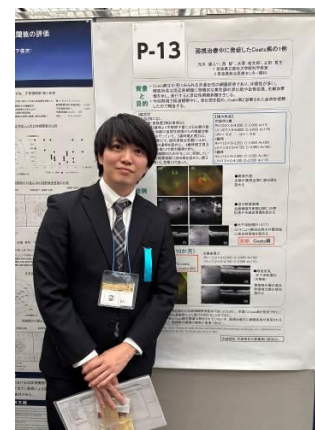
害光であるブルーライトをカットしているのになぜ？という疑問がありました。我々の研究はその原因の一旦を明らかにする価値のある研究であると考えています。詳細はもうすぐ論文化しますので、ぜひそちらをご覧ください。また、今回は学会場で色んな先生方とお話をさせていただき、いろいろと刺激をいただきました。やはり、オンライン学会にはないオンサイトの良さを感じた学会でもありました。規模の大きすぎない、Fuji Retina ならではの魅力もあり、来年も是非参加させていただけるよう継続して研究をすすめていきたいと思っています。

第 81 回日本斜視弱視学会のご報告

元木 碧人（奈良県立総合医療センター 眼科 専攻医）

2025 年 6 月 6 日に京都で開催されました日本斜視弱視学会総会でのポスター発表を無事に終えることができました。この貴重な経験を通して、小児眼科疾患について深く学ぶことができただけでなく、加瀬先生、西先生をはじめとする諸先生方のご指導のおかげで、斜視や弱視を含む小児眼科の知識を習得することができました。

このような素晴らしい機会を与えてくださり、心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



第 95 回九州眼科学会・第 58 回眼科臨床病理組織研究会に参加して

加瀬 諭（奈良県立医科大学 眼科学教室 教授）

このたび、福岡で行われました第 95 回九州眼科学会・第 58 回眼科臨床病理組織研究会に参加しましたので、ご報告いたします。一般演題は 11 演題ありました。前半の 6 演題「眼瞼腫瘍」のセッションの座長を加瀬が担当しました。後半は結膜・眼内・眼窩病変のセッションでした。一般講演の後、学術奨励賞（奥田賞）受賞記念公演が行われました。受賞者は富山大学眼科の柚木 達也先生でした。先生はこれまでの大学院での腫瘍に関する研究を紹介し、その後も脂腺癌の臨床病理学的研究を行なって、数多くの業績を上げられました。先生は富山の地で、限られた研究環境においても最大限の成果を上げられたことに感銘を受け、多くの大学の眼病理研究者に勇気を与えました。脂腺癌は扁平上皮癌と病理組織学的に類似の所見を呈すること、アンドロゲンレセプターの免疫組織化学的検討が種々の臨床病理学的な情報を提供することなど多くのトピックを拝聴することができました。最後に九州大学総長の石橋達朗先生より賞を授与されました。思い出深い受賞講演でした。



中島佐一学術研究奨励賞受賞のご報告

辻中 大生（奈良県立医科大学 眼科学教室 講師）

この度、これまでの研究成果をご評価いただき、中島佐一学術研究奨励賞を受賞させていただくことができました。この賞は奈良県立医科大学の名誉教授である故中島佐一先生（現在の幸楽薬品の創始者でもあります）のご遺族からいただいた寄付金を元に創設された賞であり今回で 32 回目になるそうです。過去の受賞者をみますと、錚々たる顔ぶれがそろっており（当科の西講師もその中の一人です）、そんな中に私が入っているのかという恐れ多い気持ちと、その中に仲間入りできたといううれしい気持ちが入り混じったような感覚であります。このような栄誉ある賞をいただきましたのも、もちろん私一人の努力ではなく、眼科学教室の諸先生方、ならびに共同研究者の先生方、さらには私を支えてくれた家族のお陰だと感じております。私事で恐縮ですが、今年のテーマは「脱、人見知り」を掲げております。研究や臨床は、やはり一人ではできず、たくさんの先生方のサポートの上で初めて成り立つと痛感しているからです。これからは今まで以上にいろんな先生方とも交流をもち、さらに臨床に、研究に邁進していきたいと考えております。これを読んでいただいている先生の元にも突然辻中が現れるかもしれませんが、その際は「これが脱・人見知りか（笑）」と流していただけますと幸いです。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



論文のご報告

水澤 裕太郎（奈良県立医科大学 眼科学教室 助教）

Comparative study of the retinal structure and visual acuity in 7-12-year-old children between children with a history of treatment of retinopathy of prematurity and regressed retinopathy of prematurity: multicenter review of J-CREST.

Mizusawa Y, Nishi T, Ogata N, Shinomiya K, Mitamura Y, Kimura N, Gomi F, Miki A, Nakamura M, Kinoshita T, Obata S, Ohji M, Tsuji T, Yoshida S, Ueda T.

BMC Ophthalmol. 2025 Jun 2;25(1):333.

夜空にかかる美しい天の川を仰いで、よしない夢に思いをはせている今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。天の川といえば織姫（ベガ）と彦星（アルタイル）ですが、その二つの星は約 140 兆 km（約 15 光年）もあるそうです。リニアが実現すれば東京大阪間が約 1 時間になるそうですが、織姫・彦星のためには SF の所謂ワープの実現が必須であり、宇宙開発に夢を抱く今日この頃です。

というわけでこの度、未熟児網膜症既往症例の学童期視機能と眼球構造の多施設研究に関する論文が BMC ophthalmology に掲載される運びとなりました。未熟児網膜症既往症例において、7～12 歳の時点で視力、屈折度数、眼軸長、網膜構造等を、網膜光凝固術を施行した群と未治療で自然治癒した群で比較検討し、網膜構造や屈折度数に有意差を認めるものの、視力予後に関して、有意差は無いとの結果が得られました。これもひとえに西先生、緒方前教授、データ収集にご協力いただいた各大学の先生方のご協力のおかげです。この場を持ってお礼申し上げたいと思います。

保田 慎之亮（奈良県総合医療センター 眼科 医員）

Intraocular Inflammation Following Faricimab Intravitreal Injection Treated With Sub-tenon Triamcinolone Acetonide Injection.

Yasuda S, Tsujinaka H, Nishiyama T, Mizusawa Y, Ueda T.

Cureus. 2025 May 8;17(5): e83764.

この度、辻中先生と共著させて頂いた、ファリシマブ硝子体注射後に生じた眼内炎症についての症例報告が Cureus 誌に掲載されました。加齢黄斑変性や糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症で広く使われている薬剤での合併症についてですので、興味がある方はぜひご確認頂ければ幸いです。

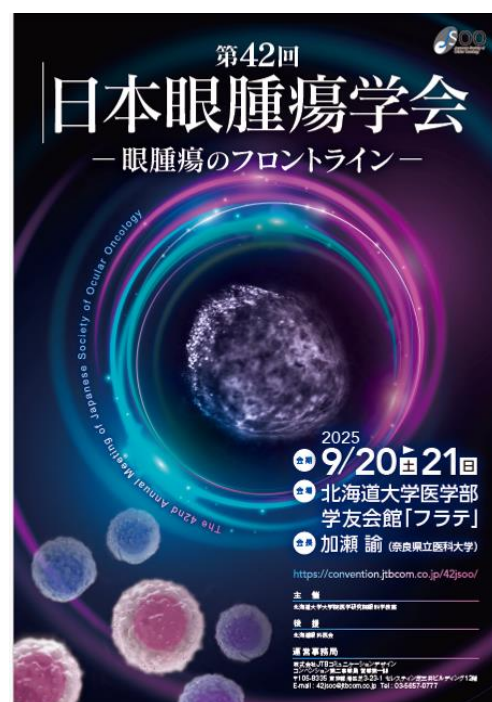
初めての英文での執筆でありましたので、お忙しい中、執筆に関して多くの手助けをして頂いた辻中先生を始めとして、内容にご助言を頂いた医局の諸先生方に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

第 42 回日本眼腫瘍学会のご案内

加瀬 諭（奈良県立医科大学 眼科学教室 教授）

このたび第 42 回日本眼腫瘍学会を、札幌市の北海道大学学友会館「フラテ」において開催させていただきます。このような機会を与えていただきました日本眼腫瘍学会の理事長の鈴木 茂伸先生、併せて理事の先生方に厚く御礼申し上げます。他方、私個人的には本年 4 月に奈良県立医科大学に着任しまして、開催地につきましては複雑な心境であります。しかし、本会は少なくとも 1 年以上前から企画しておりまして、特別講演には韓国の網膜硝子体・眼腫瘍の大家である Min Kim 教授もお招きすることが決まっており、奈良医大関連の先生方には申し訳ございませんが、当初の予定通り、札幌で開催させていただきます。

眼腫瘍は一般眼科医にとってはマイナーな分野と思われがちですが、眼腫瘍は眼表面から眼内、ひいては眼周囲や眼窩にも発生するため、その疾患理解は究極のサブスペシャリティーといえます。正常な眼組織は言うまでもなく美しいものですが、眼腫瘍も詳細に観察すると、実に興味深い所見を呈します。加えて、同じ腫瘍であっても症例によってさまざまな外観を呈するため、炎症や変性疾患とも誤診されます。日本眼腫瘍学会では毎年、さまざまな腫瘍とその類縁疾患の報告があり、自身の経験のない症例をも追体験することができる貴重な学会です。本学会の特徴は、何といたっても「熱い」討論であります。この「熱い」は討論に際し単に体液の飛散を厭わない「熱心さ」というだけでなく、「(内容・中身の) 厚い」討論でもあるのが特徴です。そのため、一般講演や症例報告を通じ、大規模な研究のみならず 1 症例をとことん追求するのも本学会の醍醐味です。本学において着任早々幸運なことに、興味深い眼腫瘍の症例を経験することができました。若干名の医局員に症例報告をお願いしましたので、是非とも有意義な学会生活を送ることを願います。



学会名	第 42 回日本眼腫瘍学会
会 期	2025 年 9 月 20 日 (土) ~ 21 日 (日)
会 場	北海道大学医学部学友会館「フラテ」
会 長	加瀬 諭 (奈良県立医科大学)
テーマ	眼腫瘍のフロントライン
主 催	北海道大学大学院医学研究院眼科学教室
後 援	北海道眼科医会

医局集合写真を撮りました📷



6 月 4 日に念願の医局集合写真を撮影することが出来ました。きれいに整備された正門側ロータリーでまぶしい西日に耐えながらの撮影でしたが、なかなかいい写真が撮れたのではないのでしょうか。(陰に入ってしまったのは、我々の弱さ故。いえいえ、眼科医として直射日光は白内障や翼状片のリスクを高めるからです。) かれこれ 1 か月以上、緊急オペ・緊急オペ・緊急オペ・・・などで全員集合がかなわず、やっと撮影できた集合写真です。と言いたいところですが、実は 1 名不在でして、お分かりになった方は医局にご連絡ください。金一封…はありません。右側は当教室による最高にちょけた(関西弁で「調子に乗った」という意味)一枚で、背後の空き地は取り壊されてしまった研究室があった場所です。今思い出すとまるで廃墟のようでしたが、あの研究室での日々を懐かしく思い出される先生もたくさんいらっしゃると思います。

ご覧の通り、年齢層の分布がスタートアップ企業のような教室ですが、活気あふれる風通しの良い教室と自負しています。教室員一同、一致団結して大いなる飛躍を予定していますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

今後の予定

2025 年 7 月 12 日 (日) シェラトン都ホテル大阪

奈良県立医科大学眼科同窓会勉強会

特別講演：順天堂大学医学部附属順天堂医院 眼科学 教授 中尾 新太郎 先生

2025 年 10 月 25 日 (土) グランドメルキュール奈良橿原 (旧 The Kashihara)

第 28 回奈良県眼科万葉フォーラム

2025 年 12 月 20 日 (土) シェラトン都ホテル大阪

奈良県立医科大学眼科同窓会勉強会

特別講演：北海道大学医学部眼科学教室 教授 石田 晋 先生

詳しくは、教室ホームページをご覧ください。

外来診察表

		月	火	水	木	金
1診	午前	西	上田	藤原	加瀬	西 小児眼科 (第2・4週)
	午後	小児・神経眼科 (担当：西)	緑内障 (担当：宮田)	手術日	眼腫瘍・網膜硝子体 (担当：加瀬)	西 ロービジョン外来 (第2・4週)
2診	午前	藤原	水澤	西山	辻中	宮田
	午後	網膜・緑内障 (担当：藤原)	網膜硝子体 (担当：水澤)	手術日	角膜・眼腫瘍 (担当：辻中)	手術日
3診	午前	倉岡	平井	丸岡 (第1週)	小林 (第1・3・5) 峯 (第2・4)	辻中
	午後	倉岡	網膜・ぶどう膜 (担当：平井)	第3・5週 角膜 (担当：丸岡)	緑内障 (担当：宮田)	手術日
4診	午前	井本	中尾 (第4週)		竹内	
	午後	井本	小児・眼腫瘍 (担当：西山)		竹内	
5診	午前	名和	森本		西山	
	午後	名和	森本		小児・眼腫瘍 (担当：西山)	
6診	午前	松浦	吉田		新田	
	午後	松浦	吉田		新田	

- ・専門外来は完全予約制です。
- ・初診の場合はまず、月・火・木の外来を受診するようお願い致します。
- ・地域連携の予約は月が6名、火・木が8名、水・金は5名可能となっております。
- ・緊急の患者様の紹介につきましては、あらかじめ眼科外来までご一報くだされば、臨時対応させていただきます。

(患者さんに関するお問い合わせ先)

奈良県立医科大学附属病院 眼科外来受付 TEL:0744-22-3051 (代表)



編集後記

平素は奈良県立医科大学眼科学教室の運営にお力添え頂き、誠に有難うございます。ニュースレターは、今回で29回目の発行となりました。加瀬教授をお迎えして初めてのニュースレターです。

ニュースレターでは引き続き、同窓会の諸先生方からのご投稿をお待ちしております。

tomon@naramed-u.ac.jp 奈良県立医科大学 眼科 西 智